

奈良女子大学下市アクティビティセンター

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環で、奈良女子大学下市アクティビティセンターが16日、下市町下市の町農村環境改善センター内に開所した。町内でフィールドワークを行う学生らの活動拠点となる。

町役場に隣接する建物で、空き部屋になっていた事務所スペース約50平方メートルを約300万円かけて改装。大テーブルやソファを置き、学生と町民の交流の場にもなる。

学生 × 地域

活発な交流期待

町地域おこし協力隊員らが共同管理し、町の移住定住相談コーナーも兼ねる。

地方創生
推進事業



開所式でテーブルカットをする藤原副学長(右)と杉本町長(左)。16日、下市町下市の町農村環境改善センター。

活動拠点開所「連携で活性化」

COC+事業を推進する同大学やまと共創教育センター長の藤原壽子副学長と杉本龍昭町長がテーブルカット。藤原副学長は「第2の大学という気持ちで頻繁に訪れて」と学生に呼び掛け、地域との活発な交流を期待。「連携して活性化を推進したい」と意欲を述べた。

杉本町長は「下市町で学んでくれる学生さんと一緒に私たちも元気になりたい」とアクティビティセンターが積極的に利用されることを願った。

開所式に続き、水垣源太郎・人文社会学領域教授の講座「地域の将来を考えるために―人口と経済―」があり、町民も聴講した。

下市町で活動するのは地域志向科目を学ぶ1、2年生ら。町内買い物マップをつくるための調査を開始した同大学人文社会学科4年、加藤かしこさん(22)は「川治いに町家が建ち並び、独特の風情がある町。学生の視点を地域づくりに役立てたい」と話した。